

薩摩硫黄島の火山活動解説資料

福岡管区気象台

地域火山監視・警報センター

鹿児島地方気象台

＜噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引上げ＞
薩摩硫黄島の硫黄岳山頂火口で、本日（2日）17時35分に小規模な噴火が発生しました。この噴火による火砕流や噴石、空振は観測されませんでした。

硫黄岳では火山活動が活発になっていることから、本日17時50分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げました。

薩摩硫黄島で噴火が発生したのは、2013年6月5日以来です。

【防災上の警戒事項等】

火口から概ね1kmの範囲（図1）では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

○ 活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図2、図4-①④）

硫黄岳山頂火口で、2日17時35分に噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上1,000mをわずかに超える程度まで上がりました。この噴火による火砕流や噴石、空振は観測されませんでした。

薩摩硫黄島で噴火が発生したのは、2013年6月5日以来です。

硫黄岳山頂火口では、高感度の監視カメラで微弱な火映を時々観測しています。

・地震や微動の発生状況（図3、図4-②⑤）

火山性地震の回数は少ない状態で経過しており、噴火前後で特段の変化はありません。

火山性微動は2018年3月17日以降、観測されていません。

・地殻変動の状況（図5、図6）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められていません。

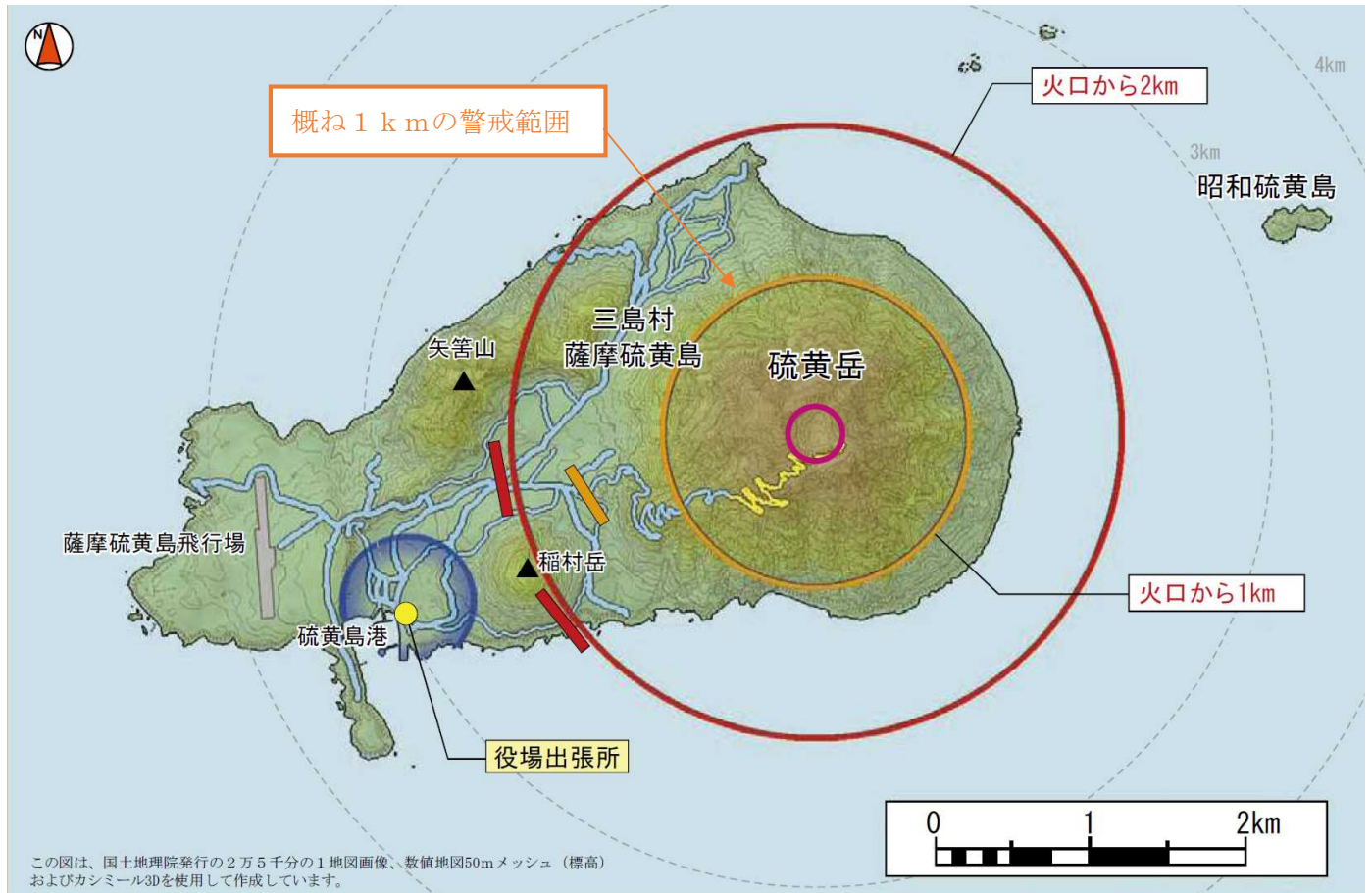
この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学及び三島村のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。



この図は、国土地理院発行の2万5千分の1地図画像、数値地図50mメッシュ（標高）およびカシミール3Dを使用して作成しています。

●噴火警戒レベルに応じて下記のような防災対応が必要になります。

- レベル5（避難）：危険な居住地域からの避難。
- レベル4（避難準備）：警戒が必要な居住地域での避難準備。要援護者は避難等。
- レベル3（入山規制）：火口から概ね2km以内の立入禁止。
- レベル2（火口周辺規制）：火口から概ね1km以内の立入禁止。
- レベル1（活火山であることに留意）：状況に応じて火口内への立入規制等。

- : 一般道
- : 登山道
- : 硫黄岳火口
- : 居住区域
- : レベル3の規制箇所
- : レベル2の規制箇所

■この図は薩摩硫黄島防災情報図（鹿児島県地域防災計画）を元に三島村等と調整して作成しています。

■各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については三島村にお問い合わせください。

図1 薩摩硫黄島 警戒が必要な範囲
硫黄岳山頂火口から概ね1kmの範囲



図2 薩摩硫黄島 噴火の状況 (11月2日17時38分、岩ノ上監視カメラによる)

17時35分の噴火により、灰白色の噴煙が火口縁上1,000mをわずかに超える程度まで上がりました。

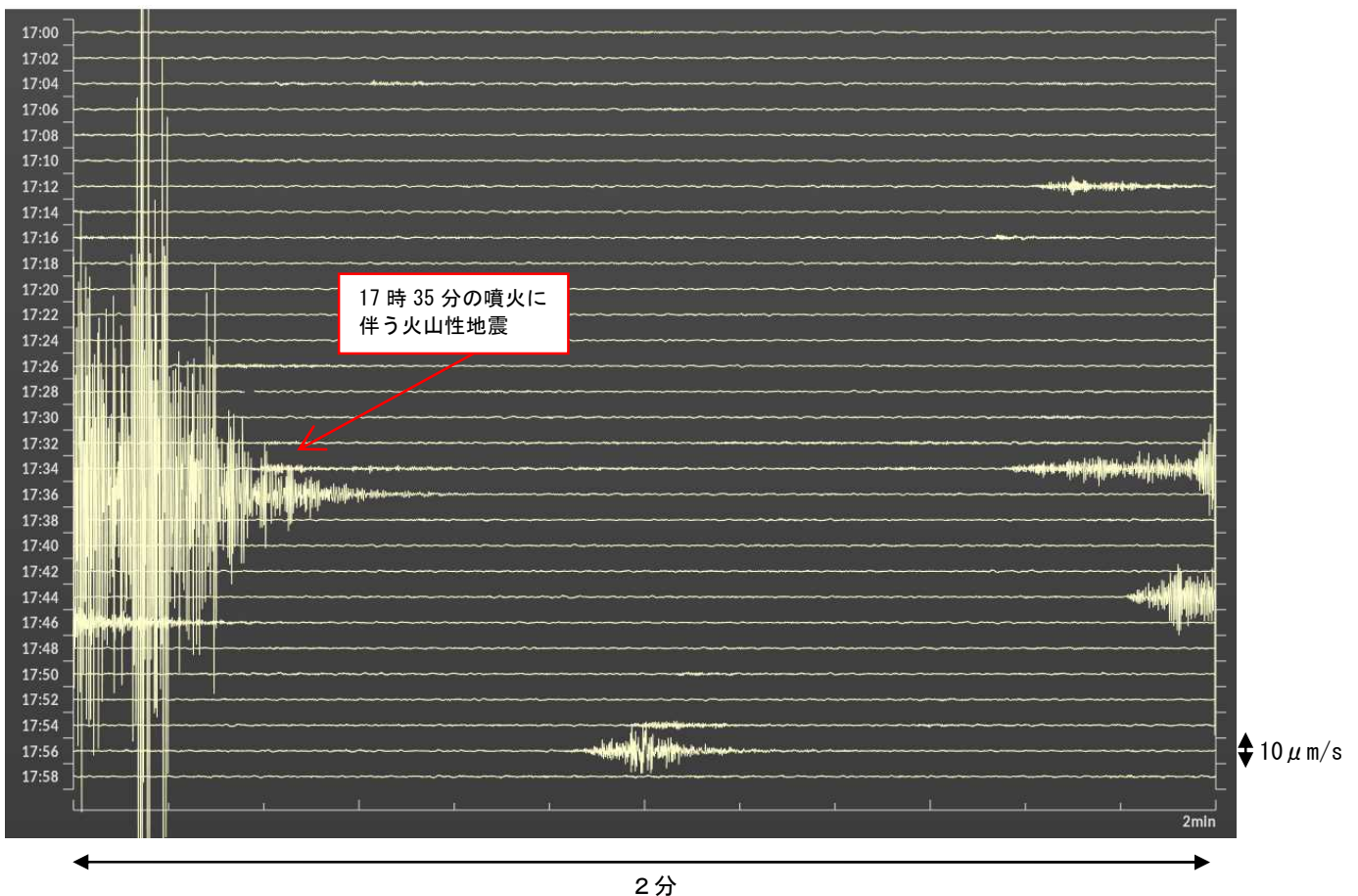


図3 薩摩硫黄島 地震波形 (展望台東観測点：上下動 11月2日17時00分～18時00分)

17時35分の噴火に伴う火山性地震の最大振幅は $246\mu\text{m/s}$ でした。火山性地震の回数は少ない状態で経過しており、噴火前後で特段の変化はありません。

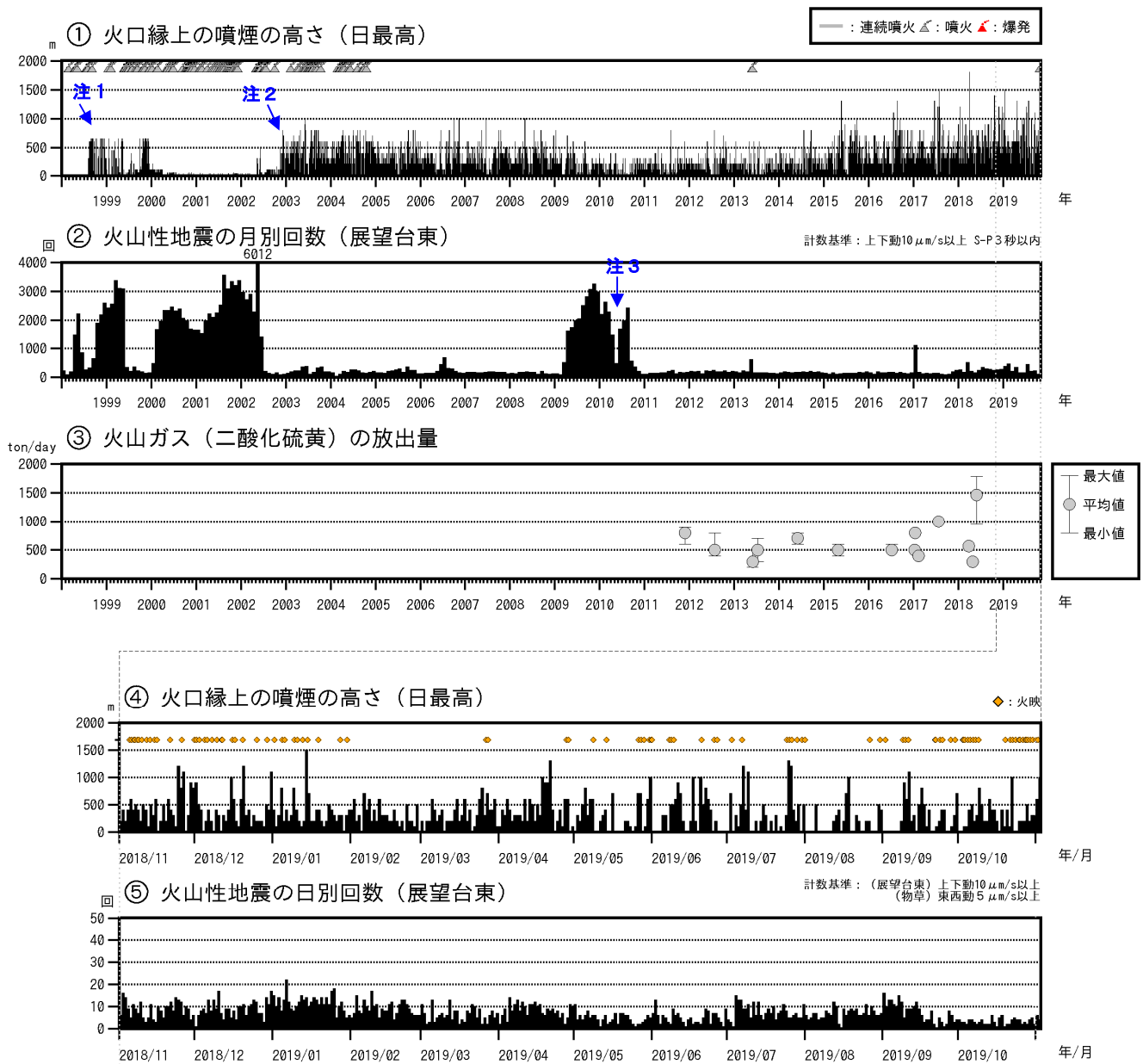


図4 薩摩硫黄島 火山活動経過図（1998年1月～2019年11月2日18時）

- ・硫黄岳山頂火口で、2日17時35分に噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上1,000mをわずかに超える程度まで上がりました。
- ・硫黄岳山頂火口では、高感度の監視カメラで微弱な火映を時々観測しています。
- ・火山性地震の回数は少ない状態で経過しており、噴火前後で特段の変化はありません。
- ・火山性微動は2018年3月17日以降、観測されていません。

注1 1998年8月1日：三島村役場硫黄島出張所から気象庁へ通報開始。

注2 2002年11月16日：気象庁が設置した監視カメラによる観測開始。

注3 2010年1月から7月にかけて、地震計障害のため火山性地震及び火山性微動の回数が不明の期間があります。

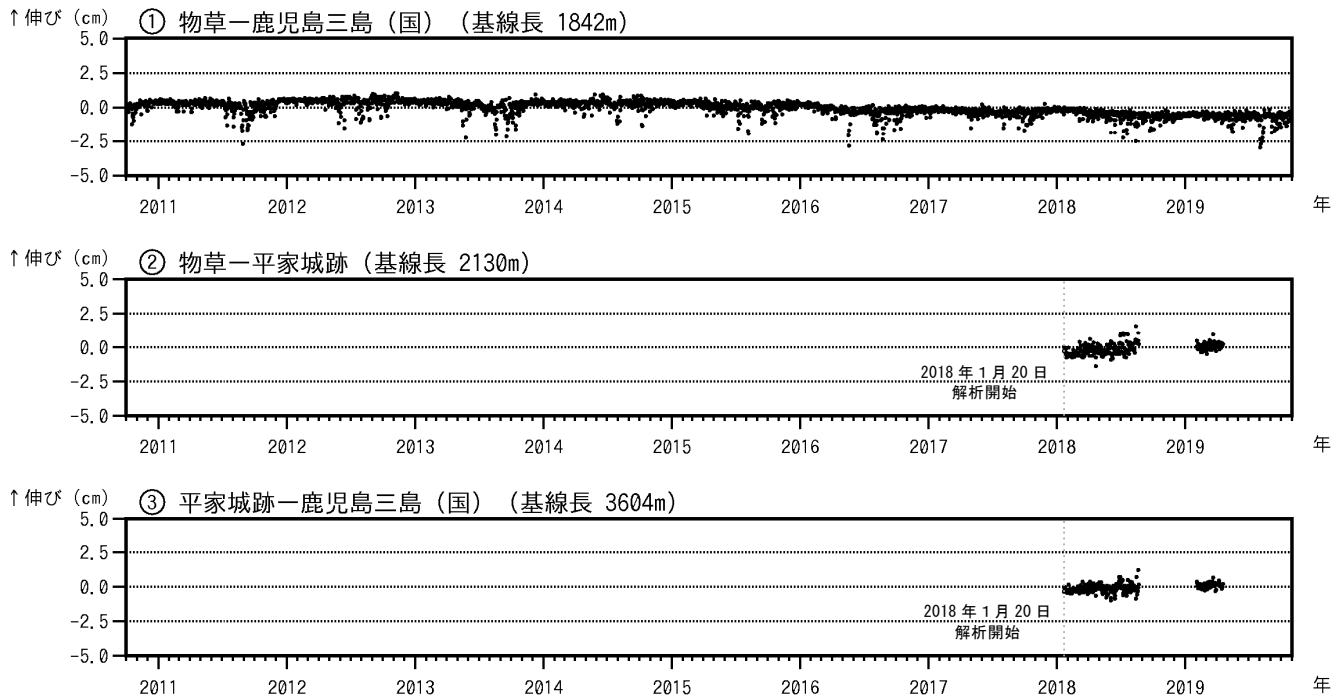


図5 薩摩硫黄島 GNSS連続観測による基線長変化 (2010年10月～2019年10月30日)

火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

この基線は図6の①～③に対応しています。

基線の空白部分は欠測を示しています。

(国) : 国土地理院

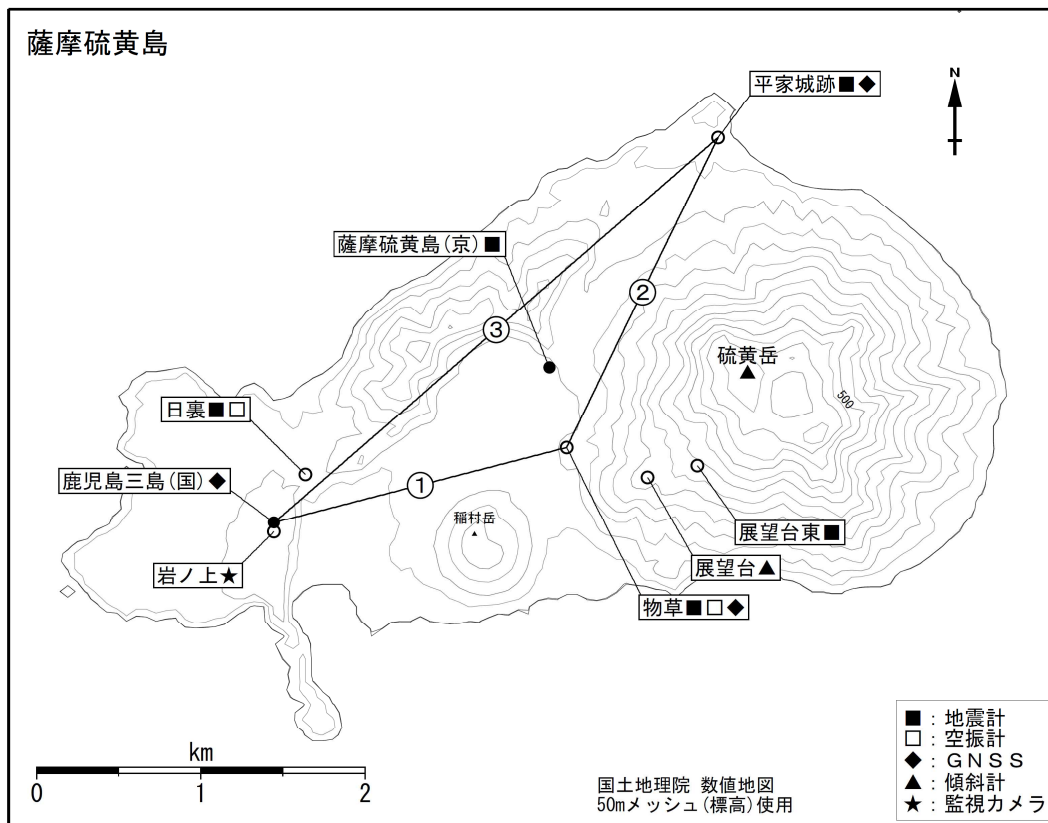


図6 薩摩硫黄島 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院、(京) : 京都大学